

全施連 ニュース

発行者
一般社団法人
全国知的障害者施設家族会連合会
理事長 由岐透
編集所
全施連広報部会
〒650-0016
神戸市中央区橘通 3-4-1
神戸市立総合福祉センター内
☎078-371-3930

販売契約数五千部突破

全施連出版「地域共生ホーム」

ご挨拶 理事長 由岐透

新年あけましておめでとーござい
ます。本年も宜しくお願い致します。
昨年は全施連が編著した「地域共
生ホーム」という書籍を出版しまし
たが、会員皆様の多額の資金カンパ
御協力を頂き発行できましたことを
御礼申し上げます。

多くの会員に読んで頂きたいと
初版五千部を契約しましたが四百冊
を超える追加注文を頂き大変喜んで
います。

この本で得られる知識を武器に施
設・行政との話し合い・要望を行う
時に役立つ事を確信しています。

▼やまゆり園事件裁判について

三年前の七月二六日未明に発生し
た「やまゆり園」事件に日本中が震
え上がり、世界中に衝撃が走りまし
た。

十九人を殺害、二六人の知的障害
者に重軽傷を与えた元職員 植松聖

の裁判が一月八日から始まりまし
た。この裁判では、植松被告が主張す
るような働けない障害者は生きる価
値がないのか、命の尊厳の平等はな
いのかも問われています。
被害者が匿名扱いになっている異
常さも社会全体の障害者差別の現状
を示していると思えます。

また、この裁判で司法は植松被告
の巧妙な？対応に惑わされず同じよ
うな事件を生み出さないために、き
め細かな法制度の確立を急がせる毅
然とした判決が欲しいと考えます。

▼今後の活動について

全施連は設立以来知的障害を持つ
我が子らの幸せを追求すること。知
的障害者（児）全ての親・家族が手
を取り合うことの重要性を認識する
こと。物言えぬ我が子らに変わって
正しい意見を言うことを全施連の理
念として活動してきました。

昨年出版した「地域共生ホーム」
は、全施連が十五年活動してきた集
大成でもあり、会員一同が学習を深

めることが必要です。

この本は衆参両院の労働委員会メ
ンバーや各自自治体議員・行政担当
者・施設職員など関係者に会員活動
の一つとして積極的に広めることが
重要なこととして取り組みます。

常任委員会の活動のお知らせ

行政対策部 衆参厚生労働委員等
国
会議員団を訪問し、「地域共生ホ
ーム」贈呈と全施連の要望活動を
計画

組織部 未加入県への全施連パンフ
レットを作成し、PR活動を進め
ます。日本福祉協会を訪問し、未
加入である県支部への紹介依頼

研修部 地域共生ホーム熟知のため、
3月理事会に於いての研修会を
実施、その後各県連研修会を開催
（執筆者調整を行いながら全県
連を巡回開催）

広報部 20号、21号の発行を計画
総務部 理事会の議案整理及び
各部との調整を行い、会員の方
へ情報提供

第6回常任委員会 1月27・28日
(神戸市)

第3回理事会 3月16・17日
(神戸市)

杜の都 仙台市に320名が集い

福祉の後退を許さない、真の共生社会を

令和元年10月7日(月)～8日(火)仙台市のホテルメルパルクにおいて、全施連第15回全国大会が2日間に亘って開催され、全国各地から320名が参加しました。

東日本大震災復興報告、行政報告、講演と全員参加型の討論会まで熱気に満ちた大会となり、最後に宮城県から次年度開催の熊本県へ大会シンボル旗が手渡され2日間の幕を閉じました。

本大会には宮城県知事、仙台市長、日本知的障害者福祉協会会長などの来賓を迎えて、宮城県知的障害施設親の会連合会副会長の大会宣言に続いて、由岐透全施連理事長から開会の挨拶がありました。

由岐理事長は、「本大会は知的障害がある人が少しでも暮らしやすく、安定した生活が保障される社会の実現を願い全国の家族が一堂に集まり、

真の共生社会を目指す地域共生ホームを道標に新たな決意で迎える全国大会の開催となる」と訴えました。

ご来賓の祝辞をいただいた後、大野宮城県知的障害施設親の会連合会会長代理の方から、8年半前の東日本大震災の復興支援への感謝の言葉が述べられました。

全員参加型討論会

「地域共生ホーム」の出版の執筆に携わっていた、埼玉大学教育学部特別支援教育講座准教授宗澤忠雄氏、北九州市立大学文学部人間関係学科教授 小賀久氏、全施連副理事長 南守氏の3名による、質疑応答スタイルの講演を行いました。

2日目は、前日の講演の内容に加え、家族会から全施連理事長 由岐

透氏、千葉県知的障害者施設家族会連合会会長 奥澤時宗氏の2名からの問題提起を受けて、本大会のテーマ「知的障害のある人のこれらの住まいと暮らし」について全員討論を行いました。

会場からの質疑討論を終え、「私たち知的障害者支援施設の利用者家族は、本の内容を熟知し、それを武器として、支援施設利用者のより良い暮らしが実現できるように、国・自治体等に対して我が子や兄弟姉妹の要望を、しっかりと突きつけていきましょう」と結ばれました。

大会決議

- 一 二十四時間切れ目のない支援で快適に安心・安全に暮らせる障害者支援施設を新設し、グループホームの質を充実してください。
 - 二 支援の制限に繋がる支援区分は本人に必要な支援が受けられる仕組みに変えて下さい。
 - 三 安定して必要な支援が受けられる支援職員の配置基準の見直しと定員増と職員の処遇改善を急いで下さい。
 - 四 知的障害者の特性を熟知し、福祉職の専門家としての施設職員を育成して下さい。
 - 五 生活保護費以下の障害基礎年金の引き上げ、憲法に保障された公的責任を果たして下さい。
 - 六 障害福祉制度と介護保険制度との一体化・統合には反対します。
 - 七 国及び地方公共団体は、知的障害者への障害福祉サービスを提供する義務を負うこととして下さい。
- 二〇一九年(令和元年)十月八日
全国知的障害者施設家族会連合会



全国大会全員参加型討論会会場

第2回理事会

会費値上げ案など継続審議へ

次回大会は熊本で

メルパルク仙台会議室において、理事会を開催しました。

全施連提言Ⅱ「地域共生ホーム」販売について、全施連の活動として理解が広がり、販売目標に一定程度以上を達成できました。由岐理事長から今後も各道県連で、他団体などへのあっせん等販売推進が求められました。

北海道家族連から出された、値上げの対案・定款の整備そのほかについて審議し、会費については、試算の精査や定款の整備等について各理事から意見を求めました。「組織拡大、事務局職員給与など組み換え等を行うことで現状の予算規模、あるいは、縮小して良いのではないか」という提案がされましたが「組織拡大によって収入は増加できるが、拡大は容易ではない。また、事務局職員給与

が、全職務を行うには正規雇用と処遇改善が望ましいがそれが出来ない」と理事長は説明しました。

定款変更は、確かに文言等の加除修正が必要など、提案を受け今理事会では、常任委員会に付託し、会費値上げ等全項目について継続審議としました。又、各理事から出された意見提案を今後の全施連の活動に活かし、方向付けが確認されました。

このほか、空席となっていた、北海道東北ブロックからの、常任委員の選出について選任が求められました。

また、次期全国大会が、2020年10月21・22日に、熊本県で開催されることが報告されました。

訃報

宮城県知的障害施設親の会 連合会会長・全施連理事 大野真知子様(享年69歳)が令和元年11月29日に永眠されました。

ここに生前のご功績に感謝し、心からご冥福をお祈り申し上げます。

合掌

2019年度全施連活動報告

月	日	内容	場所	備考
4	16(火)・17(水)	第1回常任委員会	神戸	2019年度事業計画案
5	25(土)	第13回PT会議	神戸	書籍出版打合せ
6	13(木)	第2回常任委員会	新大阪	理事会・社員総会議案内容確認
6	13(木) 14(金)	理事会& 社員総会	新大阪	H30年度事業報告・会計決算 2019年度事業計画会計予算案
6	14(金)	第3回常任委員会	新大阪	理事会・社員総会振り返り・次回打合せ
6	20(木)	中央法規出版訪問	東京	書籍出版打合せ
7	23(火)・24(水)	第4回常任委員会	神戸	書籍販売打合せ、値上げ案について
9	10(火)	「地域共生ホーム」出版		中央法規出版より出版
9	13(金)	福祉協会訪問	東京	地域共生ホーム紹介
9	18(水)	きょうされん訪問	東京	地域共生ホーム紹介
10	7(月) 8(火)	第15回全国大会	宮城	東日本大震災復興報告、行政説明、講演、交流会、全員参加型討論会
10	8(火)	第2回理事会	宮城	書籍販売、定款、値上げ案について
11	25(月)・26(火)	第5回常任委員会	神戸	委員会活動・値上げ案について

みんなで読もう 私たちの参考書

全施連出版 「地域共生ホーム」

一人では生活を営むことが困難な知的障害を持つ我が子らのために、穏やかで快適な暮らしができる住まいの実現を目指す参考書としての本を出版しました。

現在の障害者総合支援法でも入所施設利用者の暮らしは一定の保障がされていることになっていますが、職員の少なさに輪を掛ける研修の十分さ・低処遇などで、現場での利用者支援体制は、支援法が示す水準以下であることが、全国の数々の事件報道でも明らかです。

きっと出来るよ・みんなの力で
実現を目指す歩みを!

この度出版しました「地域共生ホーム」は、現在ある入所施設を快適な人間豊かな支援ある住まいへ改善していく道標として、知的障害者問題研究者の大学教授や、施設長・家族代表・経験豊かな弁護士の方々の

執筆による格調高い、そして家族にわかりやすい手引書となっています。「ホッとできる家」、快適な我が家といえる施設が必要な我が子らの声なき声と家族の願いを、友人知人、行政や議会議員の方にも「地域共生ホーム」の内容理解を広めましょう。

研修会の推進

全施連では、この図書を十分に熟読理解するために各道県連での会員への勉強会の開催を計画しています。また、各道県連で、数名の推進員を養成いただき、全会員に対して本書への理解を深めていくことを計画しています。すでに、いくつかの県連では、執筆者の方々を招いて研修会が行われており、全施連では全道県連で実施いただくよう推進していきます。

「地域共生ホーム」販売状況

全施連として5,000冊を販売目標にして、各都道府県連家族会に販売をいただきました。11月末までの販売実績をお知らせします。

都道府県	販売数	都道府県	販売数
北海道	118	和歌山	60
青森	5	兵庫	813
宮城	200	高知	188
秋田	10	島根	300
栃木	124	福岡	570
群馬	145	長崎	78
千葉	582	大分	150
神奈川	485	佐賀	124
埼玉	31	熊本	678
東京	30	宮崎	201
愛知	55	鹿児島	279
岐阜	187	全施連	39
		合計	5452

編集後記

三年前、神奈川県の入所施設「やまゆり園」で、重度知的障害者が十九人殺害され、二六人が負傷した残酷な事件が起きた。

今年一月八日から犯人、植松聖の裁判員裁判が始まり、被告は罪状を認めた。裁判は大きな話題を呼んでいるが、十九人の無抵抗の障害者を短時間で殺した事件は、世界にも類がない。

弁護士は、被告が精神病で責任能力なく、無罪だと主張しているが、そんな弁護が通るなら、この世は闇だと叫びたい。

しかし、植松被告に我が子を殺された家族が、今も名前の公表を拒む姿勢にも、同じ親として違和感を持つてしまう。

根深い差別と真正面から向き合い、わが子たちの尊厳の確立のために集まった組織の仲間である。私達は、動物的愛に溺れず、根強い優生思想の克服も学び合う必要を、この裁判は提示していると思うのである。